NPO☆Kyoken通信

100号発刊記念号

特定非営利活動法人教育研究所（問題行動事務局）100号 平成22年11月1日発行

本部　〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20
TEL：045-848-3761/FAX：045-848-3742
URL：http://kyoken.org/

宇奈月自立塾　〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16
TEL：0765-62-9681/ FAX：0765-62-1120
E-mail：contact@kyoken.org

約 20 年前からスタートした教研通信が今回で 100 号を迎えました。約 20 年の間に、編集者も次々と変遷してきましたが、100 号からは宇奈月自立塾スタッフ一同がメインとなって編集に関わることになりました。

1972 年に民間教育施設「教育研究所」を牟田武生が設立、1985 年には教育研究所の昼間部として、牟田武生が日本最初のフリースクールを開校しました。
教育研究所は設立以来、不登校・ひきこもりの子ども、若者の支援を時代の変化に対応しながら、続けてきました。

現在「宇奈月自立塾」はスタッフ、塾生、OB、全て含めて、22 名という大所帯で共同生活を送っています。4 月からスタートした基金訓練・合宿型若者自立プログラム科は第一期生である 4 月生 2 名が約 6 カ月の共同生活と訓練を終えて、10 月 23 日に卒塾しました。4 月生 2 名は卒塾後、就職に向かって頑張っています。第 2 期生である 5 月生、第 3 期生である 8 月生も社会復帰に向けて、楽しい仲間たちと共同生活を送っています。

次回、基金訓練・合宿型若者自立プログラム科は 12 月 6 日開始を予定しております。
塾の見学、体験入塾、プレ入塾等はいつでも受け付けています。ご希望の方は宇奈月自立塾、横浜本部までお気軽にお問い合わせください。

不登校・ひきこもりの支援について、時の流れに応じたフレッシュな記事を 100 号から改めて、教研通信の読者である皆様にお送りしたいと思っています。未熟な点等がまだまだありますが、皆様が教研の「今」を楽しんで読めるような教研通信にしていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

kyoken通信☆ヘッドライン

- 12 月 6 日開始の基金訓練・合宿型若者自立プログラム科の募集がはじまりました。募集締め切りは 11 月 24 日です。
- 11 月 22 日開催のシンポジウム 若者自立塾「事業仕分け・廃止から一年」～さまよう若者たちの報告会の内容が決定しました。

教研通信100号に寄せて

牟田 武生

100 号といっても、皆さんは何とも感じないかもしれないが、年、4、5 回しか出さない通信だ。単純に計算しても年 4 回だとすると、25 年かかり 5 回だとすると 20 年間になる。良くも続いたものだと我ながら感心する。

今から 25 年前というと、1985 年(昭和 60 年)教育研究所の昼間部として、日本最初のフリースクールが開校したのが、昭和 59 年だから開校 2 年目に教研通信はスタートしたことになる。最初は教研通信という名前では確かなかったはずだが、もう、通信の名前は忘れてしまった。編集者も次々と変わっていった。しかし、内容は不登校(登校拒否)ひきこもり(閉じこもり)の内容で、子どもをどう支援するか、と言った視点で編集してあった。また、いつの時代も運営に厳しさが付き纏っていたために、財政事情のことも書かれていたと思う。

当時、登校拒否は「怠け」と考えられ、世間の風当たりも強く、あそこ(教育研究所)に行くと、伝染病のように「登校拒否が移る」と、学校の先生から言われていた時代であった。

学校に来ない者は、中学 3 年を 2 回やらせ、それでも登校できないと、学齢期を過ぎる 16 歳の誕生日を迎えた翌日に除籍される時代だった。中学を卒業していない子らが何人も、教育研究所に通学して来ていた。中学を卒業していない子は義務教育未修了者、もちろん高校も行けなければ、正式に働くこともできない。

16 歳の春から、人生の裏街道を歩かなくてはならない。無論、教研 1 期生は、望んでそんな道を選択したのではない。みんな、いじめや教師から受けた謂れのない体罰によって、対人不信や不安から閉じこもった子らだった。

まだ、若かった私は正義感に燃え、その子らに「就学猶予免除者のための中学卒業認定試験」を受けれるように文部省にかけ合った。また、当時、理解してもらえそうな全日制高校や通信制高校、(当時はNHK学園と東海大学望星高校、公立の通信制高校しかなく、今の規制緩和の後にできた営利的な通信制高校はなかった)を受験させてもらえないか日々頭を下げて全国の学校をまわった。当時、そのような施設は教研しかなく、全国から不登校の子が来た。

また、教研に通学していることを出席扱いにしてもらえないか原籍校に頼みに行く。教育的配慮で校長自身の判断でお願いするが、気の弱い、組織優先の校長は教育委員会にお伺いを立てる。杓子定規の教育委員会は「前例なし」で絶対に認めない。中には、中学卒業見込みは出せないが、公立高校に合格したら、卒業させるという東京都港区立中学の校長もいた。「卒業見込がなく。高校を受験させてもらえるのでしょうか」「そんなことは知らない。貴方が何とかしなさい」出席もO、内申書はオール1、高校に倍率がある時代、入試で満点を取らないと見込みがない。

それでも、本人は血の出るような努力をし、公立高校に受かり、大学も卒業し、今では大手自動車会社の営業マンになり、二児の父親になっているOBもいた。

それにひきかえ、ネットゲームにはまり込み、「中学卒業！そんなものお前がどうにかしろ！」と他人ごとのように、親に怒鳴り掛かる今の中学生。不登校の子ども達のために、環境整備に一翼を担って来た私にとっては、複雑な思いがする 25 年間だ。

11.22「新しい若者の自立支援に向けて」・報告会のご案内

若者自立塾が事業仕分で廃止決定されて、一年が経過しました。若者自立塾に替わる新しい支援政策の中で、緊急雇用政策の合宿型若者自立プランとして「基金訓練」が4月よりはじまり、宇奈月自立塾でも、9 名の若者たちが二つのコースで訓練を行っています。現在、若者自立塾から基金訓練へと移行した 18 団体が、基金訓練の実施をしています。

本来「基金訓練」は趣旨として職業能力開発訓練を基本として行われ「職業訓練」が中心となります。「ビジネスキル」「ビジネスマナー」「基礎訓練」など、内容もかなり高度であり、即戦力となる社会人を短期間で養成していくという目的もあります。

しかし「若者自立塾」に参加してきた若者たちはその一歩前の状況からスタートする必要のある若者が大半をしめています。生活訓練、人間関係の克服など日常生活の基礎訓練が土台になります。「職業訓練」はもちろん雇用対策の一環として行うもので、職業技術を習得し、確かな技術能力を背景に安定した雇用に結び付けていくことが最大の目標であることは事実です。しかし、長期間ひきこもってきた若者や、不登校を経験してきた若者にとっては、アイドリングなしにいきなりフル回転を要求されるようなものです。ニートなどひきこもりを経験してきた若者たちへの「就労支援」としてどのようなかたちの支援がいいのか、国も、支援団体も手探りの状況で行っているのが現況です。

そこで「若者自立塾、事業仕訳廃止から一年・ さまよう若者たち」というテーマでこれからの若者の自立支援の在り方についての報告会を、NPO法人教育研究所・宇奈月自立塾が行います。
現在、基金訓練を行っている団体へのアンケート結果の報告も合わせて行います。

開催要項

・開催日　　平成 22 年 11 月 22 日(月)
・開催場所　国立オリンピック記念青少年センター研修棟 415 号室(東京都代々木)
・開催時間　午後1時から午後 4 時

・開催内容　・若者自立塾廃止決定から1年・その検証
　　・新しい若者の自立支援に向けて
　　・「自立塾から基金訓練へ」実施団体へのアンケート結果報告

・参加費用　　無料

・

申込はNPO法人教育研究所までお願いします
〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20
電話 045-848-3761　　Fax 045-848-3742　　mail　contact@kyoken.org

2010年 ＮＰＯ法人教育研究所活動案内

ソーシャルフレンド特集

ソーシャルフレンド募集中

不登校・ひきこもりの若者の社会への一歩をおてつだいしませんか？

不登校・ひきこもりなどの様々な問題を抱え込み身動きできない子ども・若者を対象に将来に向かって、経済的・精神的な自立を目指すことを目的とした新しい形のトータルな支援事業、「ソーシャルフレンド制」が不登校・ひきこもりの支援を 30 年以上続けてきた教育研究所からはじまります。
当研究所では、現在、ソーシャルフレンド制を募集しています。臨床経験、教育経験等は不問です。大学生、大学院生、社会人、専門家、不登校・ひきこもり経験のあるお子さんを持つお母さんなど､不登校･ひきこもりの若者を救いたい！社会復帰の手助けをしたい！と思う方を募集しています。

ソーシャルフレンド制とは？

家庭にひきこもっている不登校・ひきこもりの子ども・若者と社会を橋渡しする制度で、ただ、ソーシャルフレンドが家庭に訪問（アウトリーチ）をするだけではなく、人間関係力、体力、学力など、社会で生きていくための力を総合的に身につけて、最終的には経済的にも精神的にも自立していくための支援を行うトータル的な支援事業です。
不登校･ひきこもりの子ども･若者は社会復帰したくても、なかなか社会復帰への一歩が、難しいです。そんな子ども･若者の一歩をサポートするのが、ソーシャルフレンド制です。

ソーシャルフレンド希望の方は教育研究所が主催する講演会、研修に参加して、ソーシャルフレンドとしての知識、技術を学んでいただきます。
詳細はメール（contact@kyoken.org）か横浜本部（TEL 045-848-3761）か宇奈月自立塾（TEL 0765-62-9681）にご連絡ください

ソーシャルフレンドのプログラムについて。

若者が社会で自立するため４段階にわけて、社会復帰のプログラムを行います。
１ステップ（１対１の人間関係）
↓
２ステップ（少人数間の人間関係作り）
↓
３ステップ（多人数間の人間関係処理能力）
↓

最終ステップ（精神的・経済的な自立に向けて

１ステップ

受容的対応が基本

１対１の人間関係からスタート。まずは、当研究所が研修し、知識と技術を持ったソーシャルフレンドがご自宅に訪問します。	カウンセリング、診断、 スーパーバイズ
	人間関係力、不安の除去 信頼関係作り、安定した訪問

２ステップ

受容的対応＋柔らかい指導対応

１ステップでソーシャルフレンドとの１対１の関係ができたら、次は少人数の人間関係を作っていきます。 少人数での人間関係とは１ステップを踏んだ若者・子どもの人間関係です。１ステップでソーシャルフレンドとの交流で身についた人間関係力をさらに高めるのが２ステップの目的です。	仲間つくり、自然体験、 自己有用感や自尊感情の育成
	成功体験、自信・学力 外出体験

３ステップ

受容的対応＋指導的対応

２ステップで少人数での人間関係ができたら、次は多人数の人間関係の処理能力をつけていきます。これが３ステップです。１、２ステップで身についた力をさらに高めて、親子関係を見つめなおし、自分が今後社会でどうするかを少しずつ見つめていきます。	人間関係力、体力作り、 生活リズムの安定、学力、 成功体験、 自己有用感や自尊感情の育成、 自然体験 職業適性 親子関係の見直し

４ステップ

１、２、３ステップで総合的な適応力を身につけたら、次は精神的・経済的な自立に目を向けます。 進学、就職などの一人一人にあわせた進路を探していきます。最終的には社会で真の意味で自立して生きることは目指します。	学習支援のみの学校・社会復帰 ↓ 人間関係でのいきづまり 体力・生活リズムの安定のみでの復帰 ↓ 目的意識の欠落による挫折
	経済的・精神的な学校復帰・社会復帰を目指すには。 ↓ 学力・体力の向上に加え、人間関係力の理解が必要、ソーシャルフレンドによる １、２、３ステップの克服

◇ 詳細は教研HP http://kyoken.org/にも記載されています◆

ソーシャルフレンド制のボランティアに興味のある方はTEL 0765-62-9681(宇奈月自立塾TEL)、TEL 045-848-3761(横浜本部TEL)、contact@kyoken.orgにお気軽にご連絡ください。詳しい資料を送付いたします。一緒に不登校・ひきこもりの悩める若者・子どもの社会復帰の手助けをしませんか？

連載第一回目

冬彦の挑戦。ひきこもりから卒業するぞ！

宇奈月自立塾　見学編

登場人物

冬彦　（28歳）
高校を人間関係のつまずきと、趣味のゲームに熱中し、
不登校、そして中退。
その後は自室にこもり、オンラインゲーム三昧の日々を送る。
ひきこもりだが、コンビニや本屋にはでかけることができ、
ネット世界に友達がいる。

お母さん
冬彦に母子共依存気味の母親。
冬彦をなんとかゲームの世界から脱出
してほしいと思っている。

「だるい。めんどくせ～。はやくかえりてぇ。」（母だけに聞こえるくらいのぼそぼそと小さな声で）

「冬ちゃん、せっかくスタッフの方があなたのお話を聞いてくださったのに・・・・。」

「別に頼んでねえよ・・。」（同じく母だけに聞こえるくらいのぼそぼそと小さな声で）

「そんなこと言わないの、冬ちゃん。」

見学&面談後・・・。

「何かご質問とかありますか？」

「さっき、お茶運んできたスタッフ、俺より若い？1 階でテレビを見ていたやつ？じじぃみたいなやつ。見た目、もう 40 くらい？・・・年下に指示されたくないし、あんなじじぃみたいなのと一緒にいたくねえ・・。」

（目線を合わさず、母だけに聞こえるように話す）

「冬ちゃん、そういう言い方やめなさい。」

「お茶を運んできたスタッフですが、冬彦君よりも若い年齢です。1 階ロビーでテレビを見ていた人は 30 後半の年齢です。この塾には様々な年齢の人がいて、下は 10 代後半、上は 30 代後半と幅広い世代で共同生活を送っています。
年齢幅が広いほうが、色々な世代の方と交流ができて実社会と同じように、成長できる機会は増えます。」

「その…合宿生活となると自分の身の回りのことは自分でしなければないと思いますが、冬彦は一度も親元を離れて生活したことないので、今まで一度も洗濯はしたことないし、料理も作れません。合宿生活をおくるための家事分担などはあるのでしょうか？食事はこちらでだしてくれるのですか？」

「洗濯は洗濯室があるので、そこで空いた時間に各自で洗濯をしています。洗濯機の使い方がわからない人には使い方を教えています。家事ですが、食事当番、掃除機当番、玄関掃除当番、トイレ掃除当番など当番制にして、行っています。毎日の朝、昼、晩の食事はスタッフが中心となって、食事当番の塾生達が一緒に作っています。家で家事をしていなかった塾生が多いので、はじめは自分の身の周りのこと、当番など、疲れる人が多いですが、少しずつ慣れてきて、慣れるとそれが習慣になっています。」

「へえ・・。（少しオドオドしながら）よくめんどくさいことができるな・・・。その、エレベータでスーツを着た若いやつと一緒だったんだけれど、あいつは普段でもスーツを着てんの？それとも・・・・仕事の面接？・・・・（少し複雑そうな表情でおどおどとスタッフに話す。）」

「彼は、訓練生で、今からホテルのフロントの就労体験に行くためにスーツを着ていたのです。」

「ホテル？フロント・・ですか？あの、HPを見て、宇奈月塾は様々な企業で就労体験ができると聞いたのですが、どのような体験先があるのですか？冬彦は今まで一度も働いたことがないので是非、就労体験で働く経験をしてもらいたいんです。」

「就労体験先ですが、製造・裏方系では、富山の老舗の昆布工場での軽作業の体験、地ビール製造工場での地ビールの製造体験、製袋工場での製袋体験、ホテルの清掃の体験、ゴルフ工場でのゴルフ工の体験などがあり、接客系では、宇奈月麦酒館のレストランのウェイター、ホテルのフロント、ホテルのレストラン係などの就労体験があります。
本人の希望と、適性を見て、カリキュラムを組んでいます。」

「ホテルのフロント・・。ふう～ん。」」

「冬ちゃん、入塾したらホテルマンになれるかもよ！」

「たとえ体験できたとはいえ、俺みたいな高校中退のひきこもりをホテルはもちろん、どこの会社もやとってくれるわけがない‥。」（か細い声で）

「冬ちゃん‥。」
トントン‥‥。（ドアの音。作業服を着た女性がノックをしている。）

「はい、どうぞ」

「これ、今月分の寮費です。事務室に誰もいないのでここまで持ってきました。失礼します。」

「ありがとう。お疲れ様。今から仕事なのかな？頑張ってね。」

「‥先ほどの女性が寮費と言いましたが、ご自分で訓練の寮費を払っているのですか？」

「いえ、彼女は卒業生で、現在、塾から仕事に通っているんです。それで、自分の給料から寮費をはらっているんです。」

「自分で！しかもちゃんと社会復帰しているのですね‥‥。」

「彼女は塾から近隣のホテルの清掃の仕事をしています。中学校からの不登校でそのままひきこもっていたため、人間関係を作るのは未だに苦手ですが、頑張って毎日仕事にいっています。貯金藻少しずつ貯めていて、そろそろ、働いているホテルの従業員寮か雇用促進住宅にうつろうかとこの前、相談にのったばかりです。」

「‥‥。冬彦もそうなってくれたら‥。」

「うるせえよ‥。俺はゲームだけしていたい‥。ゲームの世界が俺の世界なんだ！」
（最後は声を荒げ、怒りを母親に向けた）

「冬ちゃん‥‥。」

といいつつも、冬彦は何か考え事をしている様子だった。
一週間後、体験入塾を冬彦が希望しているという電話が母親からかかってきた。

つづく

高卒認定短期合宿

平成 22 年 11 月 13 日(土)、14 日(日)に行われる第 2 回高卒認定試験のための宇奈月合宿勉強会が宇奈月自立塾にて現在行われています。7 月にも高卒認定合宿が行われましたが、今回は生活リズムの安定、共同生活による他人との関わり方などを受験勉強と併せて進めて行くために一か月という長期間の合宿を行っています。

今回、高卒認定試験の宇奈月合宿勉強会で講師を担当しているマイケル(あだ名)と水鳥先生(あだ名)にインタビューしてみました。
また、横浜本部から久玉(数学、理科担当)
土田(社会、国語担当)両先生が合宿期間
中の学習指導も行っています。

マイケル

高卒認定試験のための宇奈月合宿勉強にて勉強(主に数学)を教えているマイケルです。7 月の合宿勉強会と今回の合宿勉強会で講師を担当して感じたことは自分が理解していることを相手に伝えるのが難しいということです。ただ公式通りに教えれば相手に伝わるものではなく、自分が理解しやすいようではなく、相手が理解してもらうように教えるよう心がけています。
また、合宿に参加している子ども・若者と共同生活を一緒に送っているので、勉強面以外でも運動や散歩をしながらコミュニケーションとり、せっかくの合宿なのだから、勉強だけでなく、生活の場面でも成長してくれたらと思っています。今回も担当している生徒が高卒認定試験の日まで勉強、生活、色んなことを学んでくれたらと思っています。

水鳥先生

今年 11 月に高卒検定を受験する学生に英語の勉強を見ています。英語の長文問題は文法や単語など予備知識がたくさんいるので結構つらそうです。でも単に暗記するだけの勉強ではつまらないし飽きると思うのです。自分の力で外国語を理解するたのしさとか新しい感覚などそういうこれからもずっと自分の中に残っていくエッセンスを感じながら勉強していけば多少難しいところがあってもあきらめずに勉強していけるのではないでしょうか。少ない時間のなかで大変だけど自信をもって試験に臨めるようがんばってほしいと思います。

宇奈月自立塾では現在、高卒認定宇奈月合宿勉強会だけでなく、中高校・大学生、それぐらいの年齢の子供・若者を対象に「オータムキャンプ」という短期合宿を行っています。
詳細は教育研究所 HP(http://www.kyoken.org)の「オータムキャンプ」のページをご覧ください。

秋だ！新米の季節だ！

コシヒカリ100%の黒部米、新米を販売開始しました。

黒部市でとれる「黒部米」コシヒカリは特許庁の「地域団体商標」いわゆる地域ブランドに「米」として全国ではじめて認定されたお米です。

黒部川の豊富な水量のおかげでこの地域は湧き水が多く、黒部川湧水群として名水百選の一つにも選ばれている、この美味しい水によって作られるお米は「コシヒカリ」で、日本のお米を代表する銘柄です。

北アルプスの雪解けで水量豊富できれいな黒部川の水を使って育つ「コシヒカリ」は、冷めても甘味があって、食通の間でも評価の高い「米」なんです！　そんな美味しいお米ですが…

流通経路は8割がた東海地区（主に愛知県）でした、これを全国に食べてもらいたい！！

そして…働きたいけど悩める若者達が居る…そんな若者が元気良く働ける社会を作る為にも！

とっても！とっても！！美味しいお米！みなさんもぜひ食べられ～！

塾でも新米を美味しく食べています！

注文票

5㌔　　2500円　　×

ご自宅までの送料…（全国一律）　　1000円（30㌔までこの代金です）
お歳暮、お中元、贈り物にも最適です。

こちらをご記入下さい（必須）

〒　　－
送付先住所　　電話番号

氏名　　メールアドレス

こちらを　0765-62-1120　まで FAX をお願い致します。

なお TEL 番は 0765-62-9681 です。メールでのご注文は　m_muta@kyoken.org です

FAX 送信後ご入金を
　北陸銀行　宇奈月支店　普通　口座番号　5014010　特定非営利活動法人教育研究所
迄お願いいたします。入金確認後3～4日で届けさせて頂きます。

うなづき ☆フォトギャラリー

合宿型若者自立プログラム科の座学研修の様子です。一生懸命に学んでいます。

現在、建築事務所に勤めている、宇奈月自立塾OBを講師として、CAD研修を行いました。

調理実習に様子です。塾では、朝・昼・夕の食事をスタッフと塾生が一緒に協力して作っています。

塾では、ひきこもった子ども・若者の運動のプログラムとしてストレッチ運動を行っています。

10月20日に長野県上田にて、他の自立支援団体(侍学園スクオーラ今人さんとはぐれ雲さん)とソフトボール大会を行いました。

8月に平和の像までみんなで山道を歩いて、平和の像で記念撮影を行いました。

教研理事にインタビュー

第一回目　理事 安藤建二氏

教研の理事(役員)に現在、理事長牟田武生を含めて、19 人が就任しています。今回、第一回目の理事インタビューということで、理事・安藤建二氏にインタビューしてみました！

安藤氏は地元宇奈月にて、北日本タスク(株)、朝日観光バス(株)、大連新寧コンサルタント有限公司、フィール宇奈月(ホテル)等の経営をされており、今春からはフィール宇奈月の一階にて、沖縄のブルーシールアイス、ブラジルコーヒーの店である、カフェ・ボンフィーノをオープンされました。また、フィール宇奈月と宇奈月ニューオータニホテルは宇奈月自立塾の就労体験先の一つとして、ご協力をいただいております。

（１）安藤氏が現在、経営されている会社、事業等は何でしょうか？

安藤氏 ： 北日本タスク(株)、朝日観光バス(株)、大連新寧コンサルタント有限公司、カフェ・ボンフィーノ等を経営し事業を展開しています。

（２）現在の事業をはじめた理由、きっかけなどをお願いいたします。

安藤氏 ： 約 25 年前に勤めていた会社が倒産し、富山に戻り創業したのがきっかけです。

（３）今年の春からオープンした、カフェ・ボンフィーノですが、オープンにいたったいきさつをお願いいたします。

安藤氏 ： 当所は温泉地なので、足湯に浸りながら、アイスやコーヒーを飲んでいただきたいと考え、アイスクリームは沖縄のブルーシールアイス、コーヒーはYKK(株)のブラシルコーヒーを紹介したいと考えており、オープンに至りました。

（４）カフェ・ボンフィーノをオープンしての思い、今後の展開などをお願いいたします。

安藤氏: 宇奈月温泉で始めてのコンセプトで開店しましたが、今始は中国の大連にある日航大連ホテルで起業の予定で中国国内で広めていきたい。

（５）今後、教育研究所が発展していくためには、どのように展開していけばよいのか、経営者の目からみてのアドバイスをお願いいたします。

安藤氏 ：NPO法人とはいえ、やはり活動に要する資金を得るため許す限り、収益事業を展開することが肝要だと考えています。お手伝い出来る事があれば協力したいと常に思っております。

安藤社長、インタビューにお答えいただきありがとうございました！
安藤社長が今春からオープンを始めたカフェ・ボンフィーノは富山地方鉄道宇奈月温泉駅と黒部峡谷鉄道宇奈月駅のちょうど中間、ホテルフィール宇奈月一階にて営業しています。
詳しくはフィール宇奈月のHPをご覧ください。

フィール宇奈月HP　http://www.f-unazuki.net/
カフェ・ボンフィーノ http://www.cafebonfino.com/shop/una.html

教育研究所主任研究員 久玉の研究報告 1

不登校、高校中退を防止するための新しい試み

NPO法人教育研究所　久玉 和昭

高校の不登校は平成 16 年からの文部科学省調査によると、1.6％前後で推移しており、人数としては 5 万人、また高校中退率も若干減少傾向にあるとはいえ、2％前後でやはり人数としては 7 万人弱で推移しています。1 年間に合わせて 12 万人前後の高校生が何らかの形で、進路変更、高校生活からの逸脱を余儀なくされています。この 12 万人という数字は定時制、通信制高校の数字は含まれていません。実際としては 12 万人をはるかに上回る高校生たちが不安定な状況で社会に進出し、進路変更を余儀なくされまた家庭にひきこもっているものと考えられます。

このように高校における生徒の問題行動は小中学校の不登校と比べて別な意味の深刻さを抱えていると考えられます。小中学校における不登校は「社会的な自立」という問題にはまだ本人や周りの大人たちもそれほど意識することなしに対応しています。(もっとも、この「社会的自立」という課題が最も重要なテーマですが)しかし、高校年齢におけるさまざまな問題行動は「社会的自立」という問題を避けて考えることができないのです。すなわち高校の不登校、中退問題は極めて社会的な問題であると考えられます。

NPO法人教育研究所では、過去の卒業生のデータをもとに不登校の「不安などの心理状況の分析」「性格の判定」などを行いさまざまな形で不登校の対応プログラムを提供してきました。また横浜市、岡山市の不登校児童生徒の実態調査をおこない、さまざまなデータ分析も行ってきました。現在その蓄積、ノウハウをもとに新しく「高校中退、ならびに不登校防止プログラム」を開発しています。

新しい検査の開発に協力していただける全日制高校の在学生を被験者として、来年度から予備検査の実施を行い、検査の信頼度を図るための標準化の実施を経て最終的に平成 24 年の春に新しい検査が完成する予定です。新しい検査の内容として

① 性格判定
② 発達障害などの簡易判定
③ 不安などの心理状況の判定

を同時に行い、的確な対応方法などのコメントを提供することができます。

ニート 60 万人といわれてから数年が過ぎました。若年失業問題は今後の日本の将来に関わる問題でもあります。そのため国は若年の労働政策としてさまざまな政策を実行していますが、どうもうまく機能していないように感じられます。この検査がその防止のための支援の一面となるように開発を進めていきたいと考えています。

ＮＰＯ法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いただいておりましたが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただきたく存じます。

昨年度の牟田先生の緊急入院に際しまして、皆様方の温かいご支援をいただき、教育研究所も何とか再建の方向で動き出すことが出来ました。牟田先生も少しずつ現場に復帰出来るまで回復し、カウンセリング、講演などの活動を始めました。

ただ、教育研究所の運営はまだまだ不安定な状況であり、運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 年会費

※ 1口￥5,000 （1口増えるごとに￥5,000加算されます）

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は　北陸銀行　宇奈月支店
（ホクリクギンコウ　ウナヅキシテン）
名義　特定非営利活動法人教育研究所
（普）　5014010
郵便振替　00230-9-112182

特定非営利活動法人教育研究所会員の方には、

○カウンセリング料の割引　1万5千円→1万円
○年5回程度の定期通信の発行
○講演会などのイベントのお知らせ
○お母さんたちのミニ図書館の利用
・新特典
○グループカウンセリングの割引（1口につき1回無料）
※グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。
○教育研究所温泉宿泊施設（AEHビル）をご家族で利用できます。（会員割引があります）

・・

新規入会申込書（新しく会員になる方は郵送かFAXまたはメールでご連絡ください）

（郵便振替でお申込みいただく方は必要有りません）

入会者氏名	
住所	〒

郵送先　〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20　　Fax 045-848-3742

お母さんたちの交流会のお知らせ

「毎月 5～6 人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」
（卒業生の母より）

・同時に親の会ミニ図書館を開催。
・会員の方ならどなたでも利用可。
・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が 300 冊以上あります。
　ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第4土曜日午後 1 時から 4 時頃まで
NPO教育研究所横浜事務所にて。
参加希望者は教育研究所までお願いします。

教研☆伝言板

継続して寄付を求めています。

専用寄付口座
横浜銀行　上永谷支店
店番号　323　口座番号　1442822
名義人　特定非営利活動法人
教育研究所　（寄付）理事長　牟田　武生

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方（英語・数学・国語）
カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方
高卒認程度の教科指導できる方。
技術をお持ちの方で、定年退職をされ、
その技術を若者に伝え、若者の自立支援に
役立ちたい方

編集後記

10 月も末となり、全国的に肌寒い日々になってまいりました。もう少しで宇奈月の山々は紅葉がはじまり、紅葉シーズンで宇奈月温泉街全体が観光客で活気にあふれていきます。
紅葉で染まった宇奈月の山々はとても美しく、冬化粧ならぬ秋化粧を紅葉という白粉でほどこしています。
教研通信 100 号から教研通信はリニューアルされ、今回からは宇奈月スタッフがメインとなって編集しましたが、いかがでしたでしょうか？
101 号以降も皆様がより読みやすく、情報がダイレクトに伝わるような記事を書いていきたいと思っています。
教研のこんな情報が読みたい！こんなことが知りたい！など記事の内容にリクエストがございましたら、お気軽にメール等でご連絡ください。今後の教研通信の記事の参考にぜひ皆様のご意見お待ちしております！